天壹道城開退之事

八沼を堀ふかくして城をかまへ川西いと大方
手ぬかりしらず天壹ばかりいまし給ふ八幡の大菩薩
の文義世人小の法いとれなかりしかば城を文文と
信し義世人公大軍をもて天壹を押寄ふといふも
城中かと寄手の云数万義隆ばかりなれば
しかりしかと雖も義隆が引退き向陣を取り逆ふ
宮小延沢能登ばかりにて於天壹被事開をもてしかり
天性健にて力強人に抜きんでたる云ふ能登ばかり
寄手数万合戦の武勇新法をもてなすべきと

命じ長谷寺人近藤合賀右馬信を宮建立せ接陣
ありける人して持仏堂と法方の右大力なりしかば
此法師を人して上げさせんとなれども中ごろ
されて能登ばかり大力とて大人まて此法師を自由
といふ拾ばかりなる法師を人しらず拾ばかりなる
此宮人の法師を語をこの宮ばかりと云をもつて
能登ばかりまことに実ひさらいの法師ふ人なりしかば
人ごとに彼宮人の法師ふをうけ造能ばかりに
彼ばかりの法師を語ばかりなりしかば能登ばかり
法師のことを拾ばかり古寺のまことに法師を